

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月7日(火) 10:00～10:41

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：19名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和2年春季火災予防運動について

代表質問

- (1) 一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センターについて

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への県の対応について
- (2) 東北中央自動車道 南陽高畠～山形上山間の開通後1年を迎えて

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さんおはようございます。皆さんもご案内かと思えますけれども、昨日、新たに新型コロナウイルス感染症の方が、6人確認されました。私としましても、本当にこれはもう山形県にとって非常事態だな、というふうに捉えたところであります。そして、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐことができるかどうかの瀬戸際というふうに思っております。非常に重大な岐路と言ってもいいところかなと思っております。

そこで、これはですね、県民の皆さんと一丸となって感染拡大を防ぐということを一致団結して、取り組んでいただきたいと思いますので、県民の皆さんにお願いがあります。まずは、何回も申し上げておりますように、県民の皆さんも大変驚かれ、ショックを受けて不安感が高まっているのではないかと思いますけれども、できるだけ落ち着いて冷静に落ち着いて行動をしていただきたいと思いますというふうに思っております。不確実な情報、デマなどに惑わされないでほしいというふうに思っています。

また、引き続き、丁寧な手洗いと咳エチケット、これは続けてくださいますようお願いをいたします。

そしてですね、政府も、本日、緊急事態宣言というものを出されるというふうに聞いていますので、これは全国が一致団結して取り組むということが大事であろうというふうに思っております。やはり、日本全体で取り組むということがこの新型コロナウイルス感染症を撲滅するというのに繋がっていくのではないかと思います。

そこで、県民の皆さんに2つお願いがあるのですが、1つは、やはり県外との往来というものを控えていただきたいと思います。その中でもと言いますか、今までちょっと申し上げてはこなかったですけども、出張とか研修など、そういったこともあるかと思われます。それも当面の間は、見合わせていただきたいと思います。今は、テレビ電話とかですね、あとインターネット、そういった便利な機器もございますので、そういったものを大いに活用していただきたいと思いますというふうに思います。

もう1点は、これは、申し上げてきたことではありますが、法事・法要などの行事ですね。それについては、県外からの参加を見合わせていただきますようお願いいたします。これまでよりも強く、この2点についてお願いをいたします。

それで、そのお願いとはまた別に、県として今取り組んでいくことがございまして、それを2点申し上げます。

まず、1つ目なのですが、検査体制です。昨日はもう90件検査しておりまして、大変現場もですね、大変なことになってきているわけであります。机上論とですね、現実というものがございまして、24時間まわすと言っても、それはなかなか難しいところもありますので、検査体制を強化するという意味で、外部への発注というものも活用しながら、なおかつ、県内での検査体制を拡充していきたいと思っております。これは、明日明後日すぐできるというようなことではありませんけれども、まずは庄内でも検査ができるような体制

を構築するように指示をしたところでもあります。それから、保健所は、置賜・最上にもございますので、すべての保健所で検査ができるように、順次整えてまいりたいと考えております。そのようなことを今考え、実行していきたいというふうに思っております。

もう1つはマスクです。マスクの効用というものも言われておりますけれども、ただ、できる限りの感染を防ぐという意味では何らかの効果はあるとも聞いているところでありますので、まず、いろいろな施設がございますね。介護施設でありましたり、障がい者の施設でありましたり、そういったところに対してまだまだマスクは不足しております。政府から一部はきているというふうにも聞いているところでありますけれども、このままただ待っているわけにもいきませんので、県内の縫製会社など、そういった事業者の方と連携してですね、まず県内で布製のマスクを作っていただいて、そして施設などに配布していきたいというふうに思っております。

それから、学校現場でもですね、生徒さん、教職員の皆さんもおられますけれども、学校現場にもやはり必要だと思っております。市町村の中には、もう取り組んでいるところもありますけれども、やはり、県内全部の学校でそういうことが必要だと思っております。それで、どういうふうにするかということでもありますけれども、まず県立学校については県がですね、そして、市町村立の小中学校については市町村と連携して、配布できるようにしていきたいというふうに思っております。

それからさらに、県民の皆さんも大変マスクが不足しているというお声をお聞きしております。店頭で行列ができていたりとかですね、全く手に入らないとかいろいろお聞きをしているところであります。手作りというようなこともされている方々もいらっしゃいますけれども、やはり店頭で買えるようにしていくことが大事かなと思ひまして、県民の皆様が県内で製造した布製マスクを店頭で購入できるように、そのことについても施設関係、そして学校関係、さらに県民の皆様ということで、店頭でも購入できるように事業者と調整を進めていきたいというふうに思っております。

本当に長期戦を覚悟しなければならないというふうな状況だと思っております。見えにくい手強い敵との戦い、全世界でそういう戦いになっておりますし、本県でもそういうことになっていると思っております。県民の皆さん、お一人お一人とですね、一緒になってこの難局を乗り越えていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、ここで発表が1点ございます。春になるとどうしても火災が増えますので、その予防運動について申し上げます。

春先は空気が乾燥して、火災の発生が最も多くなる季節です。県内では、先月25日以降「たき火」などによる火災が10件発生しました。県では31日に「林野火災野火等多発警報」を発令し、市町村や消防機関とともに注意喚起を行ったところです。その後、今月に入ってから7件の野火が発生しております。今後も、空気が乾燥した状態が続きますので、火の取扱いには十分ご注意くださいと思います。

本県では、明後日の4月9日から22日までの2週間、「令和2年春季火災予防運動」として各消防機関が啓発活動を展開してまいります。県民の皆様には、“火気使用中は、その場を離れず、使用後は完全に消火する”、それから“強風時や乾燥時には、「たき火」や「野焼き」をしない”など、火の取扱いにあたって、決して気を抜かないで、最大限の注意を払っていただきますよう、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

共同通信社の木下です。今年の4月1日に、移住と定住の推進のための法人というのが、東北で初めて山形県で設立されて、今年予算としても、1億7千万余りを移住政策に割いているところですけども、このコロナウイルスの拡大を受けまして、今年度の活動として、「移住・定住」というよそから人を受け入れる施策についてどのように進めていくおつもりであるのか、あるいは全体としての受止めと言いますか所見を伺いたしたいと思います。

知事

はい、わかりました。本県人口の社会減少の抑制に向けて、本県への移住・定住を促進するため、県・市町村・産業界・大学等による「一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター」を東北で初めて設立いたしました。この新組織を中心に、1つとして、山形への移住を促す情報発信、2つとして、移住希望者へのきめ細かな相談対応、そして3つ目、移住希望者と県内市町村とのマッチング、また、4つ目ではありますが、移住者の定住・定着支援など、本県への移住者増大に向けた取組みを強く推し進めていくこととしたところであります。

それで、このコロナウイルスの感染が拡大している状況ではどうなのかということでもありますけれども、今日中にもですね、政府から緊急事態宣言が発令されるというような事態であります。また、本県内でも私は非常事態だと捉えているところであります。こういう状況にあってですね、このことを平時と同じように実施するという事は、やはり控えないかならないかなというふうに思っているところです。

と言いますのは、冒頭で申し上げましたように、やはり国難とも言えるその時に緊急事態宣言が出されますので、これは全国が一致団結して、しっかりと協力し合って取り組むことが大事だというふうに捉えているところであります。そういう事態でありますので、このことはですね、県外との往来というのも私は当面の間控えてくださいというふうに申し上げておりますし、そういうことについては当面の間やはり、自粛するということになるかと思えます。ただですね、そこはそこなのですが、今は相談とかですね、いろんな問い合わせに対する受け答えといったことに対しては電話でありましたり、またネットでありましたり、いろいろな機器を活用して相談の活動とかですね、それからまず情報発信と移住相談、そういったことなどはできるかなと思っております。

まず、新型コロナウイルスに影響しないというような程度です、情報発信と移住相談、そういったことなど、できるところはやっていくということに、そのくらいなのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

TUYの結城と申します。お世話になっております。知事にお伺いしたいのですが、新型コロナウイルス関連で、県内では今、毎日のように感染者が出ている状況ではありますけれども、特徴が徐々に見えてきているような気がしているんですね、私個人的には。

知事

特徴ですか。

記者

はい。県外の方からまず持ち込まれるということと、あとは、不特定多数の方がいるような場所に行っているというよりは、濃厚接触者の中で拡大しているというような、そういう特徴が見えてきているように個人的には思うのですが、知事のそういった山形県特有の状況が何か知事の中で感じられているのかという受止めと、あとはそれに向けてどのようなその封じ込め対策が必要になってくるとお感じになっていらっしゃるのか、この2点をお伺いしたいと思います。

知事

はい。わかりました。そうですね、本当に連日のようにですね、感染者の確認が続いております。今ご質問ありましたように、1点目はやはり、ほとんどの事例の大元がですね、県外からいらした、来県された方からというようなことだと思います。全てがそういうところまで特定できているわけではありませんけれど、大体がそういう感染経路というふうになるかと思っております。

それから2点目が、やはり山形県がですね、3世代、4世代同居でありましたり、やはり非常にみんなが仲が良いといいますが、そういったところがあるのかなというふうに、私も思っております。どうしたらいいかというようなお話でありますけれども、やはりこの新型コロナウイルス感染症という、それをまず感染拡大を防がなければならないということでもありますので、今日強くまた県民の皆様にお願ひしましたけれど、県外との往来は控えていただきたいと。それは個人的なこともあるかもしれないし、企業活動として出張とか

研修などもあるかもしれないけれど、不要不急のところまでも進みますけれども、やはりそういったことでありましても控えていただきたい。文明の利器をフル活用してですね、工夫して対処していただきたいというふうに思っています。

2点目のほうはですね、やはり、家族が仲良く暮らすというようなことは本当にこれだけでも私は良いことだと思っていますし、友人との交流とかね、人が集まって楽しく過ごすというのはやはり非常に大事なことであります。喜びとか生きがいとかそういったことに繋がっていくのだと思っています。ですが、新型コロナウイルス、こういう事態にあっては、当面の間、やはり3密を防ぐということが大事でありますので、密閉、密集、密接、その密集と密接ですね、特にそのところを平時とは意識を変えて、コロナウイルスから1人1人自分の身を守り、また相手の身も守るのだというような思いを持って、密集しない、そしてちょっと距離をおいてお話をする、できる限りマスクといったことも含めての咳エチケットをしっかりとさせていただくというようなことをですね、その大原則のところをやはりしっかりと実行していただいて、この困難を乗り越えてから、それからまた山形県の良さであります仲良く暮らすというようなところをですね、取り戻してというか無くすわけではないのですけれども、ちょっとの間だけ、当面の間だけそういったことにご留意をいただいて、対応をしていただきたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。もう1点お伺いしたいのですけれども、本日、政府のほうから発表される見通しとなっている緊急事態宣言についてなののですけれども、山形県にはどのような影響が出るというようにお感じになっていらっしゃるのか、知事の受止めをお聞かせいただけないでしょうか。

知事

そうですね、第一に思い浮かべますのは、県外との往来ということで申し上げましたけれども、緊急事態宣言が7つの都府県に出されれば、そのところから県外には出ないよというようにということも含まれていると聞いておりますので、そこは県外との往来を控えてくださいということに対しての1つのやはり追い風といいますか、同じ方向、こちらからは県民にだけお願いしてきましたけれども、あちら側からもそういう行動の抑制ということになりますので、効果が高まると思います。あとは企業活動ですね、そういったことを産業界に対してどういう影響が及ぶのかということについては、これからしっかりと分析、把握をして、対処していきたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございました

記者

日本経済新聞の浅山です。今日の知事のですね、県民へのお願いで今までと違うのは、出張についてもですね、当面見合わせていただきたいと。これは見合わせるという言葉はもう自粛ということによろしいわけですか。

知事

はい。自粛していただきたいと思います。

記者

その代わり県外との往来といった場合に、向こうから来る観光客であるとかですね、どこまで含むか微妙な点もあるかと思うのですが、県外との行き来の自粛。あと特に外出自粛とかそこまではまだ必要はないということ。

知事

そうですね。ですがやはり緊張感を持って対処しなければいけませんので、できうる限り、日常生活に支障が出て困りますけれども、できる限り不要不急の外出は当面の間控えていただくのが、最もウイルス拡大においては効果的であろうと思っております。

記者

その場合、外出自粛とってよろしいのでしょうか。外出の自粛を呼び掛けているという理解でよろしいのでしょうか。

知事

外出という言葉はね、冒頭では申し上げなかったと思います。できうる限りということだと思っております。というのはですね、外出のどういうところが入るのか、例えば農作業でしたらこれは外出には入らないのではないかと思います。密集でもなければ密接でもない、畑仕事とかですね、そういったことが今から始まるかと思っておりますけれども、そこまでの外出ということには含めないかなと思っておりますので、あえて外出ということは申し上げませんでしたけれども、ただできうる限り外出を控えていただいたほうが、効果はあるというふうに思っております。私から「外大丈夫ですよ」ということも県民の皆さんの気が緩んだりしてもいけないかなと思っておりますので、専門家の意見というものもあるかと思っておりますけれども、正しく恐れるということももちろん大事なのでありますけれども、できうる限りということをお願いしたいというふうに思います。

記者

今回の政府の緊急事態宣言が出たから何かをやるというわけではなくて、今のお話は

昨日また更に、また新規に出たということの対応ということによろしいのでしょうか。

知事

そうですね。出張とかそちらのほうまで申しあげましたのは、それは緊急事態宣言ということとも連携しております。

記者

連携している。

知事

はい。もちろん完全に分離はできないわけでありましてけれども、両方重なったわけですね。5人出て6人出てというのが続いておりますし、その水面下ではどのぐらい広がっているかもう本当に計り知れないところがあります。ここを何としても封じ込めていかなきゃいけないということもありますし、あと政府のほうの緊急事態宣言、これについては全国一致団結してやはり協力し合って取り組んでいかなければいけないというものがあると思っておりますので、そういう意味で企業活動にまでちょっと及びましたけれども。ただ、いろいろなことを聞いているんですね、研修があるから来いと言われていたりとかですね、そういった現場の皆さんの声もお聞きしてもおまして、やはりここでしっかりとみんなで踏み込んで、私からお願いをして、できる限りネットとかそういった文明の利器をフル活用していただいて対応していただきたいなというふうに思ったところでもあります。

記者

河北新報の菊地と申します。今非常に厳しい状況の中での質問になってしまうのですが、東北中央自動車道はですね、南陽高島～山形上山間が繋がってですね、ちょうど13日で1年を迎えます。それで今年の2月ごろまでは物流や観光で一定の成果を示してきたかと思えます。今非常に厳しい状況になり、人の往来は今かなり制限されていますが、物流のほうはですね、例えばマスクや医療機器の搬送であったり、物流のほうでは一定の役割を今も果たしていると思えます。その物の行き来に関する今の道路の役割と、今後ですね、またコロナウイルスが終息した後の観光、復興に関してはまた道路が一定の役割を果たすというふうに思いますが、その辺ですね、1年経過していろいろなことがありましたけれども、その受け止めと、今後のですね、道路の役割に対する期待というところをちょっとお聞かせいただければと思います。

知事

はい。高速道路がですね、東根から首都圏まで繋がったということは、山形県の発展にとって非常に重要な成果を上げるということに繋がったと思っております。それで平時の

時には本当に、物流でありますとか観光などの交流でありますとか、さまざまな面で本当にメリットがたくさんあるというふうに思っています。ですが、こういう事態、本当に緊急事態宣言が行われるわけですがけれども本県内でも非常事態というようなことに私は捉えております。そういう時にですね、やはり物流ということではしっかりとそのままできる限り続けていただければと思っておりますが、人というところでですね、やはり新型コロナウイルス、人から人へ感染しておりますので、そこをね、どういうふうにしていくかが1つの大きな課題だろうなというふうに思っております。道路を走って、道の駅に立ち寄ってくださる方もおられるわけなんですけれども、やはりいろいろな、コロナに関しての心配というのが出てくるわけありますので、そこをね、どういうふうにしていったらいいのかなというふうなこともしっかりと考えていく必要があるかなとも思っております。

人の往来を止められないというふうに私言ってきましたけれども、緊急事態宣言が発令されれば、自然にですね、物流以外の、物流までは制限ならないというふうには承知をしておりますので、人の往来ということで一定の効果と言いますか、そういう抑制に繋がるというふうに期待をしております。

とにかく今は全国が一致団結してコロナ撲滅のためにというその一念でですね、一定の期間しっかりと様々な行動を抑制して、そのあと終息に向かったというふうな時に、やはりそれから、V字回復という言葉を使っておられましたけれども、そこからやっぱり、撲滅して、それからしっかりと復活ということになるのだと思います。

その復活ということについては、まず地域内で動いて、それから全国的な、広域的なというふうになっていくのかなというふうにも考えているところでありますけれども、まず目の前のことにしっかりと対処しながら、コロナとの闘いというものにしっかりと打ち勝ち、克服していきたい、そのためにも県民の皆さんと一丸となって取り組んでいかなければならないので、本当にマスクの皆さんにもしっかりと周知方お願いしたいと思っております。

記者

ありがとうございました。重ねてなのですが、その経済活動がですね、いろいろと制約されると、非常に県の経済が厳しい状況になり、今は我慢の時だと思いますが、一致団結してですね、撲滅を図りつつ、終息後にはですね、経済もまたカンフル剤と言いますか、復活に向けてですね、いろいろな政策も必要になってくると思っておりますが、その場合にもやっぱり道路の役割というのは、この首都圏とのアクセスの強化というのは、その時になって一定の役割、効果を発揮するかと思っておりますが、中長期的な部分での道路への期待というのはいかがでしょうか。

知事

はい。中長期的にはやはりしっかりと新型コロナウイルス感染症を終息させて、そのあともかなり大きな経済対策というものをですね、国と市町村と一緒に、そういった

対策、プラスに向けての対策をできるだけおこなってですね、一気に回復に向かうことが一番大事なことかなと思っております。そのためには道路は大事なところだというふうに思います。

記者

ありがとうございました。

記者

朝日新聞の三宅と申しますが、さっき、マスクの話が出ましたけれども、これについては、県内いくつぐらいの業者に依頼してですね、いつ頃までにいくつぐらい作りたいというような、数値的な目標はございますでしょうか。

知事

はい。施設関係者とか学校関係者等の数字がわかりますので、当面やはりそこについての配布ということでやっていくと思います。

県内の製造してくださる業者、すでに製造しているという方もおりますけれども、それとまたプラスして製造していただけるというようなところをですね、今当たっておりますので、そこも1つ1つ、ここは1日800枚ですとか、1日3,000枚ですとか、それぞれ製造量も違ってきますので、それをきちんと把握しながらですね、配布ということになるかと思えます。

記者

具体的な数については、まだこれからということですね。1か月間に何万個作るとか、そういうことではなくて、それぞれの製造能力を見極めていきながら積み上げていくということになるわけですね。

知事

そうですね、はい。そうだと思いますが、ただ、やはり望ましいというような量はあるかと思えますので、今、どのくらい進んでいるのですかね。今答えられることがあればですね、しっかりと今、業者さんとのやり取りをしているというようなことを聞いております。

産業労働部次長

産業労働部報道監の安孫子と申します。ただいま知事から発言ありましたように、今、県内の製造業者のほうにどんどん今あたっております、業者さんによって製造のですね、能力というのはいろいろありますから、その辺とどんどんと今調整を図りながら、なるべく多く拡大できるように調整しているところであります。ちょっとまだ数についてはですね、今調整中で

ありまして、なるべく多くの皆さんに協力いただきながら展開していきたいと思っております。

記者

布製のマスクということによろしいのですね。

知事

そうです。はい。布製で、使い捨てではなくですね、何回も洗って使える布製マスクということでもあります。

記者

ありがとうございました。

記者

さくらんぼテレビの高橋と申します。午後も会見があるということですので、この場でお答えいただける範囲で構わないのですが、昨日、新たに6名、感染確認されました。お答えいただける範囲での詳細というか、どういった方で、どういった経路が想定できるかとか、といったところをお答えいただきたいのですが。

知事

はい。私も第1報だけ昨日の夜聞きましたので、やはり今から報告を聞くというそういう段階でありますので、午後までお待ちいただければと思います。

記者

では、第1報を聞かれて、昨日6名ですか、そういう広がり方みたいなどの印象、今回6名をまとめて見た時の印象というのは、どういうものですか。

知事

そうですね。やはり、予想外に広がっているなということでありまして、さらにそれから先も広がっているかもしれないというようなことも考えられますので、本当に非常事態だなというふうに、第一、まずは思ったところであります。ですから、ここをどうやって防いでいくのか、感染拡大を防げるかどうか本当に瀬戸際だというふうに今思っているところです。今が肝心なので、やはり先ほど県民の皆さんにお願いということで、ちょっと強く強くお願いをしたところでもあります。

記者

まだ細かいところについては。

知事

はい、今調査中で、私のところにも届いておりませんので、午後にお話をさせていただきます。

記者

ありがとうございます。

記者

すみません、たびたび。日経新聞です。恐らくまだ決まっていないことだと思うのですが、先ほど知事がおっしゃったPCR検査の拡大ですね、民間に委託するというのと、県内各保健所、あるいは県内4か所でやるという意味だと思うのですが、詳細はこれからいうことでしょうか。

知事

そうです。担当のほうでは、医療統括監とかですね、健康福祉部とか、担当のほうではいろいろなその情報は持っておりますけれども、私としては今の、要するに短期戦ではなくこれは長期戦になるのかなという思いもありますので、寝ないで頑張ってもらってもですね、倒れたらどうにもならないというようなこともありますので、やはりギリギリのところまでやっていただきながらも、できるところはしていくと、そこで1つは考えたらいいいのではないかということをお願いしました。

ですが、都会のほうのですね、その大規模なと言いますか、検査、民間らしいんですけども、そういうところもね、もしかしたらパンクするかもしれないというようなことも踏まえますと、県内で平行して拡充して、検査態勢を拡充しなければならないというふうに考えたところなんです。それで、やはり内陸では衛生検査所が今のところありますので、庄内にですね、まず、できるだけ早く検査態勢を整えるようにということを申し上げたところです。

あと、本県4ブロックありますので、その4ブロックに全部保健所ありますので、置賜、最上、そういうところにもいずれ整えてですね、着々と検査態勢を拡充して行って、たくさんの方をですね、検査できるように、ゆくゆくはもう本当に自分が陰性なんだろうか陽性なんだろうかというふうな疑問を持って、接触者でなくても知りたいというような方も出てくるかもしれないというふうに、いずれはそのみんながですね、検査を受けられるようなそういう体制に拡充していければというふうに思ったところであります。

記者

ありがとうございます。すみません、さっきの、もう1回確認で恐縮なのですが、県内の外出自粛の呼びかけは。

知事

もちろんできる限り外出を自粛していただきたいと思います。

記者

不要不急の外出の自粛は呼びかけるということだったのでしょうか。県外については出張等で、往来の自粛を呼びかけると。県内の外出については。

知事

はい。できうる限り、外出もできうる限り控えていただければという。

記者

自粛してほしいという。

知事

そうですね。はい。

記者

ありがとうございます。